

人生はこんなに楽しい！ その1

2022年6月7日

太田隆次

新型コロナ、近頃急に多くなった不審メールなどで、ともすれば暗い気分の毎日ですが、ふと見つけた漫画で「モノは思いようで米寿になっても人生、まだまだ楽しく笑えることが一杯あるんだ」と気づかされました。

日本語に訳して紹介しますのでお楽しみ頂ければ幸いです。

とりわけ、

「私達は、毎年、タダで太陽を回る旅を楽しんでいる」

「私達は、心に音楽を聴きながら墓場に行く」

はこの年でこそ味わえる楽しみと思うのですがどうでしょうか？

■ THE POSITIVE SIDE OF LIFE: 人生の楽天的側面

- Living on Earth is expensive, but it does include a free trip around the sun every year.

地球に生きるには高くつく。だが毎年1回、太陽をまわる無料の旅が楽しめる。



- How long a minute is depends on what side of the bathroom door you're on.



1分がどれだけの長さかは、君がトイレのどっちのドアを開けるかによる。

● Birthdays are good for you; the more you have, the longer you live.



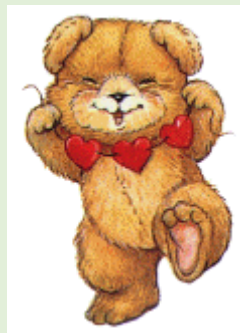
誕生日っていいものだ。多く重ねるごとに、君は長生きするんだ。

● Happiness comes through doors you didn't even know you left open.



幸福っていうヤツは君が開けっ放しにしたことも忘れてたドアからやってくる。

● Ever notice that the people who are late are often much jollier than the people who have to wait for them?



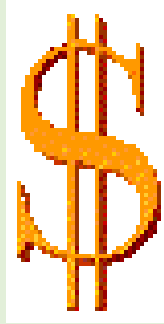
遅れてくる者の方が、彼らを待たなければならない者よりも往々にして機嫌よく過ごせる。

● Most of us go to our grave with our music still inside of us.



我々のほとんどは、心に音楽を聴きながら墓に行く。

●If Wal-Mart is lowering prices every day, how come nothing is free yet?



ウォルマートは毎日値下げしているなら、なぜ無料のものが無いんだ。

●You may be only one person in the world, but you may also be the world to one person.



君はこの世で一人の人間でしかない。だが、誰かにとって君は唯一の世界であることもある。

●Some mistakes are too much fun to only make once.



たくさん失敗することは、一つしか失敗しないことよりよっぽど楽しい。

●Don't cry because it's over; smile because it happened.



済んだことに泣くのは止めて、起きてしまったことを笑いなさい。

● We could learn a lot from crayons:

some are sharp, some are pretty, some are dull, some have weird names,
and all are different colors....but they all exist very nicely in the same box.



クレヨンから学ぶことは多い。

先がとがったままのものがある。きれいなものがある。くすんだものがある。おかしい名前のも
がある。そしてみんな違った色だ。だがみんな一つの箱にちゃんとおさまっている。

● A truly happy person is one who can enjoy the scenery on a detour.



ほんとうに幸せな者とは、回り道の景色を楽しむことができる者だ。

● Have an awesome day, and know that someone who thinks you're great has thought about

you today!..



酷い 1 日を過ごしたら思い起こしなさい。あなたは大事な人だと思っている誰かが、今日もあな
たのことを想っていることを。



その2

音楽よ、一生付き合ってくれて有難う

2022年6月9日 太田隆次

物心ついてからこのかた、音楽は常に私の傍にあります。皆様も同じでしょう。

80年を超える音楽とのつきあいを、

1. 幼かった小中学生時代、
2. 米寿を迎えた

今とに分けて、思いつくままに書いてみました。

1. 少年時代は「学科としての音楽」との対決で悪戦苦闘の時代でした

1) 国民学校時代

私が「学科」として音楽と対決したのは国民学校1年生の時でした。

就学前までは子供の遊びで友達と調子はずれで歌って遊んでいたのが通知簿に「良の下」と評価され、保護者との面接では、先生は「太田君のさくらさくらの歌は、私のオルガンがついていけません」と言われたそうです。

母親から伝えられた、この評価によほどこたえたのか、今でもその時のショックが忘れられません。そうです、音楽は敵だったのです。

4年生の時、「ただ一面に立ち込めた」で始まる「牧場の朝」を習いました。皆で首を振り振り歌いました。風景も歌い込んだ、はじめて出会った「歌らしい歌」でした。

アメリカの航空機の空襲が激しくなり、音楽の時間にオルガンで「これはB29」とか「これはグラマン艦載機」とか聞かされました。

6年生の卒業式で「仰げば尊し」を涙をこらえながら歌いました。父兄席を見ると母もハンカチを目にあてていました。「蛍の光」はスコットランドの歌とは知っていましたが、「仰げ尊し」は日本の歌とされて「さすが」と思っていましたら、10年ほど前にアメリカで楽譜が見つかり新聞で報じられました。がっかりです。

2) 中学校時代

音楽は音楽学校出身の厳しい指導で、歌詞でなくドレミファソラシドの楽譜で歌わされ、英語、数学、理科、社会、国語などと同じくらい苦勞しました。かの「ボルガの船歌」の出だしの歌詞の「引一けよ」も、先生配布の楽譜を見ながら「ソミラーミ」と悪戦苦闘したものです。歌詞を覚えて楽譜で歌っていると、よく叱られました。

2 今は、音楽は私の人生の最大の楽しみになっています

かつてはどの企業や会合でも宴会の終わりは個人の「隠し芸」と、これは日本特有の文化です。皆様にも各人各様の思い出があるのではありませんか。戦後暫くは太平洋戦争中の中国などからの帰国者が多く、どの企業でも年配の男性の隠し芸の出し物は戦地で覚えた旧日本軍の戦意高揚の軍歌が多かったものです。そのうち、歌ごえ喫茶、ラジオの音楽番組の飛躍的な増加、カラオケ、ライブ、クラシック、軽音楽などなど、音楽はあらゆる領域で発展を遂げ、年齢を問わず誰もがいつでも好きなように気軽に楽しめる時代になりました。

蛇足ながら、一人暮らしの私は、毎朝の食後1時間ほど好きな音楽のCDをミニコンポで流し、毎週土曜日は午前10時からBS朝日で聴き、前向きになれる活力を貰っています。これが人一倍の元気の源と思っています。

終わり